

ニューカレドニア:もう一つの現実

Hot Spotとニッケル開発

共同通信社・科学部
井田徹治



ニューカレドニア

フランスの海外領土

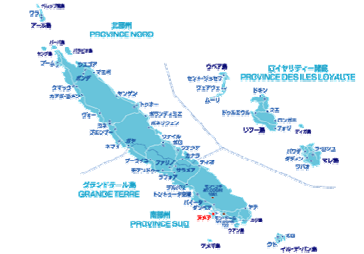
面積: 1万8575平方キロ・ほぼ四国と同じ
人口: 約23万人



産業

1) ニッケル鉱業が最大の産業
世界の約30%を埋蔵
輸入収入の90%近く

2) 第二の産業が観光業
年間10万人強 うち日本人が3万人弱
不振が続き、減少傾向
バヌアツ、フィジー、グアムなどとの競合



ニューカレドニアの自然と生態系

長期間、大陸から分断されて存在
生物が独自の進化 多数の固有種
少ない哺乳類 9種のコウモリだけ
豊富な鳥類 190種 22固有種 (Birdlife, Avibase)
カゲー、ウベアインコ、オオミカドバト

さんご礁 グレートバリアリーフ、ベリーズのリーフに匹敵
1700種の魚、250種の造礁サンゴ
多数の海洋生物
タイマイ、ヒメウミガメなど
淡水魚、昆虫、カタツムリなど。未知の生物も

ニューカレドニアの自然と生態系(2)

独特の植物種 オーストラリアや他のメラネシアとも違う
約1800種のうち90%以上が固有種

ゴンドワナ大陸時代の遺存種(裸子植物)

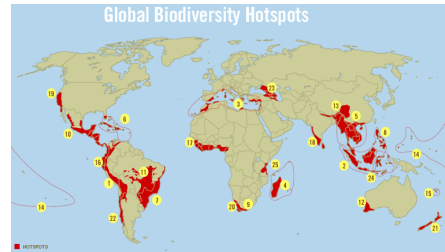
ナンヨウスギ科 アラウカリア・コルムナリス
アウラカリア・ルーレイイ
世界に20種存在 うち13種がNCにだけ

ニューカレドニアの自然と生態系(3)

世界的な認識

34カ所の生物多様性のホットスポットの一つ

(コンサベーション・インターナショナル)



Global 200 ECO REGION(生態域) 地球を代表する200の自然
WWF

ニューカレドニアバリアリーフ New Caledonia Barrier Reef

ニューカレドニア湿潤林 New Caledonia Moist Forests

5



6



7



8

自然と生態系への脅威

進む自然破壊 多くの絶滅危惧種

Birdlif, Avibase

オーストラリアヨシゴイ (EX)
 ニューカレドニアクイナ (P EX)
 アカジリムジインコ (P EX)
 ニューカレドニアズクヨタカ (P EX)
 カゲー (ED)

オオミカドバト (NT) など1種絶滅 13種が絶滅危惧種

IUCN RED LIST

ニューカレドニアトラザメ、アカジリムジインコ
 など1種絶滅 4種が絶滅危惧種

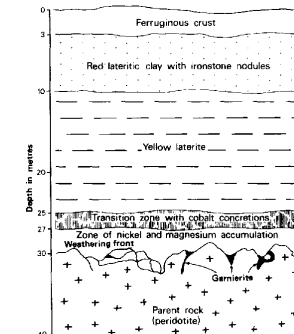
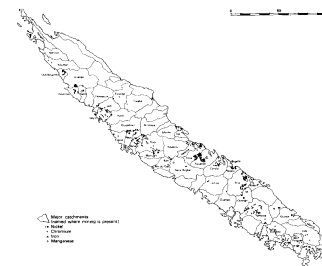
CI

ハレギオオコウモリなど3種のコウモリを加え13種

★無秩序なニッケル鉱山開発、狩猟、移入種、さんご礁の破壊、漁業など

ニューカレドニアのニッケル開発

地域の最大の産業 ヌーメアなどは豊か



表面の土を平らに削って露天で採取

Hit & Run

不十分な規制

汚水などの影響大

跡地のリハビリなどほとんどない



ゴロ・ニッケル開発 プロジェクト

世界最大級のニッケル資源量

2007年秋以降: 酸化ニッケル約60000t／年(ニッケル地金換算)

炭酸コバルト約4300～5000t／年(コバルト地金換算) の生産予定

事業主体は Inco Limited(本社トロント)

事業総額 は約18.78億USD

2004年10月、住友鉱山と三井物産が出資決定

住友:11%、三井:10%

2006年1月に70%完成

HPAL(高圧酸浸出法) 湿式精錬法的一种

比較的低品位の鉱床から酸と溶媒、電気分解で



13

ゴロ・ニッケル開発 プロジェクト

先住民を中心にした強い反対運動

・不十分な環境影響評価 先住民の軽視

・過去の環境・社会破壊の経験

・先住民との土地所有を巡る論争

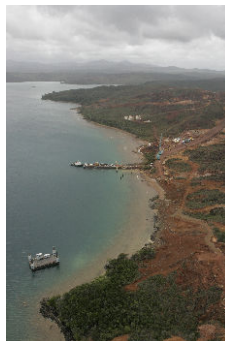
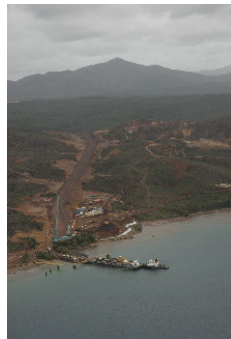
・規模の大きさ

道路、排ガス、周辺の湖から大量の採水

・近くにある海洋自然保護区やマングローブ林への排水などの影響
さんご礁の保護区、フランス最大、世界遺産に登録申請

・HPAL法への懸念

14



15



16



17



18



19

ゴロ・ニッケル開発 プロジェクト

2006年3月 建設地からの地滑りが原因の海洋汚染
海洋保護区に影響・緊張が高まる
先住民がバリケード 工事はストップ
2500人のデモ

2006年6月
裁判所が2004年10月の操業許可を取り消し
・不十分な環境影響評価
・汚染拡大の懸念

建設許可は有効 工事は継続可能

操業開始時期への影響は不明だが、先行きは不透明

20

ニューカレドニアとニッケル開発

The easiest way to get money.

最も簡単な外貨源

Tourism is a poor peoples job.

観光業は貧乏人のやること

政府の腐敗、不十分な規制

市民運動の不在



持続的でない鉱山開発の継続

さまざまな環境、社会的影響

知られていない日本企業の関与

Q: 日本企業の責任は？

21

鉱山開発と持続可能性 WSSDの議論から

Two apparently contradictory concept! (WSSD,2002)

- ・大きい環境インパクト — 自然原因の土地浸食を上回る
- ・有害物質使用量が大きい 酸、水銀、シアン、重金属
- ・廃棄物排出量が大きい 濃度が薄いもの
- ・「開発」には必ずしも有利でない
 - 価格変動が大きい、大量の土地、労働安全問題
- ・生態系との衝突の機会多 コンゴ、マダガスカル、ニューカレドニア・・・



- ☆補助金、優遇措置の見直し 適正な土地利用料
- ☆汚染者負担の原則の徹底 廃棄物処理の外部コスト
- ☆環境・社会影響評価の強化 特に先住民問題
- ☆収入源の多様化、脱鉱業依存
- ☆土地利用計画の充実 GISの利用

22

鉱山開発と持続可能性 WSSDの議論から

WSSD 実施計画 パラグラフ46

鉱業、鉱物及び金属は多くの国の経済及び社会発展に重要。現代生活に不可欠。

持続可能な開発に向けた鉱業、鉱物及び金属の貢献を拡充することは、あらゆるレベルにおける以下の行動を含む

(a) 透明性と説明責任促進のため、鉱業、鉱物、金属のライフサイクルを通じて、労働者の健康と安全を含む環境、経済、保健及び社会的な影響と恩恵に対する取り組みを支援、幅広いパートナーシップを利用し、利害関係者間の活動を前進させる

(b) 各国の規則に従い、国境を越える重要な影響を考慮しつつ、土地の回復プロセスのための閉鎖後を含め、地域及び先住民コミュニティ及び女性を含む利害関係者の参加を拡大

(c) 鉱物の採鉱と加工のための資金、技術、対処能力向上シティー・ビルディング支援を途上国などに提供することで、持続可能な採鉱慣行を醸成
加工法を改善、科学的情報と技術情報の質を向上
劣化が進んだ土地を再生し、回復させる

23

鉱山開発と持続可能性 さまざまな取り組み

企業

International Council on Mining & Metals

The Global Mining Initiative

The Mining, Minerals and Sustainable Development (MMSD) project

2002年の報告書

国際プロセス

キンバリープロセス for 紛争ダイヤモンド

UNCTAD The Mineral Resources Forum

NGO

No Dirty Gold キャンペーン など..

24

鉱山開発と持続可能性

企業の取り組みはまだまだ...

法令を守っていればそれでいいか？

Social License to Operate

国際プロセスもまだまだ...

International Commission for Mining ?

NGOと消費者もまだまだ...

関心、活動、理解もこれから

認証、ラベリング制度の可能性

25

ご静聴ありがとうございました

ご質問、御意見などは 井田徹治 tetsujida@aol.com まで

参考文献など

The Impacts of Opencast Mining on the Rivers and Coasts of New Caledonia
The United Nations University, 1984

Breaking New Ground: Mining, Minerals, and Sustainable Development –
The MMSD Final Report, 2002

RESEARCH REPORT: Mining and Critical Ecosystems: Mapping the Risks
2003, World Resources Institute

World Summit Policy Brief #9
From Rio to Johannesburg: Mining Less in a Sustainable World
Payal Sampat, World Watch Institute

ニューカレドニア観光局 <http://www.newcaledonia.jp/>

コンサベーションインターナショナル <http://www.biodiversityhotspots.org/xp/Hotspots>

世界自然保護基金 <http://www.worldwildlife.org/science/ecoregions/g200.cfm>

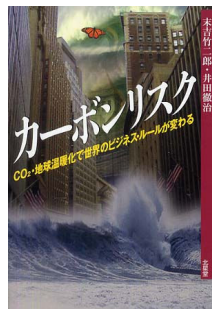
26

ちょっと宣伝

最新刊 井田徹治・末吉竹二郎共著 序文: レスター・ブラウン (北星堂)

カーボンリスク

CO₂・地球温暖化で世界のビジネス・ルールが変わる



27